

「**高き志を以て杉のごとくまっすぐに信念を貫き、
美しき心を有する稚子を育む優しい人になりたい・・・**



輝く未来に向かってホップ・ステップ・ジャンプと飛躍の年になりますよ・・・」

——自分の感情に気づき、自己決断し、自分が大好きで

最後まで自分を信じる事が出来る教育をめざして——

学校法人 高杉学園 学園長 高杉美稚子

春風とともに新しい年度がやってまいりました。ご入園、ご進級を心よりお喜び申し上げます。何もかも新しい仲間が増え、一番大変な時期でしょうと回りからはねぎらいの言葉を多く頂戴しますが、子ども達も、教師も、保護者の方も最も成長することが手に取るように見る事が出来る私の一番大好きな季節です。何だか心がワクワクするような、心改まる、そんな4月がまためぐってきました。本当に楽しみです。

今、園児達、保護者の皆様、先生という、素晴らしいゆりの樹幼稚園の仲間がめぐり合ったことに心から感謝致します。少し大人びた進級生、新しい園児達、保護者の方を迎えて、そして先生達と共に歩き始める新年度のスタートです。胸にいっぱい希望があふれてくるような感じがします。今年もこの、園児、保護者、先生であることの必要性がきっとあるはず。だから、この仲間であったことに感謝して生きていきたいと思ひます。

春号は毎年、同じ言葉になりますが、**大切なのは志を同じにすること**です。再度お付き合い下さい。

4月に当たり、今一度、共に確認してほしいことは、やはり、「**ゆりの樹幼稚園の教育理念**」です。今、お互いに子育ての過程における教育で最も大切に、共通理解しておきたいことはこれだけです。

「**ゆりの樹がめざす人間像**」のように「**人の良い所に焦点**」を当てて、「**ごめんなさい**」の謙虚な心をもって、**わかりません、教えて、助けて**」が言える正直な自分であること、**辛いことこそ、「ありがとう」と素直に感謝して、柔軟性と勇気と、決断力**を忘れないで精一杯生きていきたいと思ひます。

この教育理念をもとに集った教師、親、子どもを取り巻く大人が一致団結し、心を一にする事が出来れば、おのずと子ども達は育っていきます。辛くても、悲しくても、それを乗り越えていく**大樹**のようにどっしりとまえて、**逆境をはねのける力を身につけていくことが出来る**と思ひます。

皆さん、ゆりの樹幼稚園の教育理念を理解し、集ってくださったのです。新学期にあたり、子ども達のこれからの素晴らしい**未来**の形成の為に、再度教育方針の確認をして頂きたいと思ひます。



★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「**真の自立への道**」（個別性と共感）
- 2に「**知ることの喜びを与えること**」（自己成長の継続と問題解決能力）
- 3に「**感動と思い出を作ること**」（生命の尊重と危機管理能力）

★三つの教育の根幹★

- 1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」、
- 2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。

そして、そこにあるのは、本当の意味での、「優しさと厳しさ」です。その為に必要なのは「愛と思いやり」です。大人の人間関係も同じです。それぞれが自分の考えを通せば子どもへの「愛と思いやり」も育ちません。

大人の、客観的な考え方、しっかり子どもを見る目、声を聞く力、子どもの心を感じる力がなくて、その場に應じた「愛と思いやり」ができないと「五つの過ぎたるかかわり」になってしまいます。

★大人の5つの過ぎたるかかわりの結果起こること★

保護とは、子どもが望んでいることを、望んでいるときに、望んでいるだけ与えること、
過保護とは、子どもは望んでいるけれど、子どもが自分でやろうとすれば、十分できることまで、安易にこちらが手を貸してやってしまうこと、
過干渉とは、子どもが望んでいないことややりすぎたり、やらせすぎたりすることです。
過期待とは、子どもが自分に期待するのではなく、子どもが出来る以上に親が望むこと
過放任とは、子どもが望んでいる以上に放任する事
過許可とは、子どもが望んでいないのに許可を与える事

この5つに共通する特徴の第一は、愛と注目、承認の不足や欠如、二番目には**選択や決断の大部分に大人がかかわること**で、**子ども自身の「授受の喜びや挫折の体験」が少ないこと**にあります。本当に自分が何をしたいのか、何を望んでいるのか、自分でわからなくなります。

相手の反応だけを見てしか行動が取れないと、相手の承認を求めて、どういふ答えが正解か、相手が望む正解だけを求めて、褒められる答えだけを求めて、苦しむことになります。

だから、「5つの過ぎたるかかわり」が怖いのです。特に過干渉のつけは青年期などのあとになってやってきます。この5つの過ぎたるかかわりのために、真綿でしめつけられるように子どもは自分をなくしてしまうのです。

この5つの過ぎたるかかわりを打破する方法が「**セルフコントロールできる子どもに育てることー自己決定能力のある子どもにすること**」にあると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切になってくるのです。

★ゆりの樹幼稚園が考える教育の循環★

「**自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感→自立**」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「**自分が大好きで、自分が信じられる**」教育です。

この教育は、日々の保育だけでなく、子ども達が自ら選択、決定し、自己承認が出来る**自主選択保育「ドリカムタイム」**や子ども達の感覚の鋭敏性、創造力、考える力、柔軟性、感性を培い、視野を広げる、あそびのおもちゃの自由広場でのその年齢に不可欠の子ども達の望ましい成長と発達を促す教育でもあります。

子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、いつ自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。



自分で自分を律する（セルフコントロールできる）ことが出来れば人は切れません。自分で決めるためには、「**小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要**」です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。そして、自分の行動に自信が持て、自分の夢に向かって歩き出すことができるのです。

この「セルフコントロールできる子どもに育てることー自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

三つの友達とのかかわり

- 1、「私は私」という自分の存在の確立
- 2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在

この人間関係の中で育まれるのが、心の教育です。

**「心の教育とは」ルールを教えるのではなく、なぜそうしないと
いけないかという気持ちを教える事ではないかと考えています。**



『心』を教えないで社会のルールだけを教えると、その人は間違った努力をしてしまうことになります。もし、子どもが、その事に気付かないで、ただ親や他人の承認を得ようとして言いつけを守るとすれば、その意味がわかっているのではなく、怒られるのが嫌だからしているのであって、理解しているのではないのです。

又、自分のことをわかってくれた時の、ほっとした体験をした時の気持ちが子どもの心を育てる、気持ちよいという心、感情、心地良さを育てる事によって心が育つのです。そして、毎日に**希望**を持って生きていくことができるのです。

全ての教育は子どもが自分の心に躍動するものがなければなりません。そしてその気持ちをわかってくれた人の言う事を人はきくのです。子どもが自分の気持ちに素直になり、かかわりの中心になった時に初めて心の教育が出来るのだと思います。先生や友達と心をひとつにすると気持ちがいいと感じること、子どもは親、教師や友達とかかわることで自分の存在を確認していきます。



そして、園や家庭生活を通して、子どもは自分の心に修正を加えながら、**「最後まであきらめない心、苦しくても悲しくても、つらくてもそれを乗り越えていく心」**を会得し、自分が自分であるというアイデンティティーを確立していくのです。そして結果として、この**地球**を自分の足で、自分のシナリオで、自分の足で**太陽**に向かって歩んでくれる子どもに育っていくのだと思います。それが『育てる』つまりは『自ら育つ』ということなのです。

そして、もっとも大切にしたいのは信念を持ってゆりの樹が考える「10E」を生きること。



★エコ・エンバイロメント★

常に自分の心と体の健康に気をつけること。そのためには自分の周りの物的、人的環境を整えること。愛のある言葉、夢、希望が持て、勇気が出る言葉をしっかりたべる「心のあさごはん」、そしていつも自分のことを理解してくれ、共感してくれる人を見つけておくこと、**「心のウンチ」ができる場所があることが大切**です。

しっかり心の朝ごはんを食べたら、うんちを出すことも大切、もし、心のうんち（不満、不安、怒りなどの感情）を出すことができなかつたら、抑圧となって、それは変な形となって爆発するのです。だから、時、場所、相手、タイミング、言い方を考えて、上手に出すことが大事です。

★エデュケーション・エモーション★

エデュケーションは先に述べた、ゆりの樹の三つの教育、三つのかかわり、三つの柱です。そして、その実現の為に、**「ゆりの樹の10E」**があります。心の朝ごはんと心のウンチを上手にすることが「ゆりの樹の10E」につながります。なぜなら、先に述べたように、その行動がどのような、自分の心の奥底にある動機、感情に突き動かされているかが大切だからです。

だから、**感情・エモーションに気づくこと**が一番大切です。自分の感情に気づかない限り、自分がどのような感情、動機に突き動かされて行動しているのか気づかない限り、自分の行動は納得できなくなるのです。感情に気づかない限り、自分が、居心地がいいか、悪いかも自分で分からないので、自己選択、自己決定もできないのです。



感情に気づけば、自己選択、自己決定ができ、自分を承認し、自信がつき、自分に自信があるから、自他分離し、他人も自分も「これで良し」と、共感し、そこに真の自立があることは、「ゆりの樹の教育方針」ですので、もう既に充分ご存じのことでしょう。これが自他肯定です。自他肯定できるからこそ、素直な言葉が出てきます。自分の心の声、感情に素直であれば、他人の目を気にして、フリをしなくて済みます。

★エンパワメント・エンターテイメント・エンジョイ・エクセレント★



人間力・エンパワメント（色々な人や本がどんなに良いことを教えてくれ、私達が進む道を示唆してくれても、自分がその道を進みたい

《進むべきではなく進みたいという気持ちが大切。人生は should から will への転換が大切。他人がどう思うかを気にした「すべき」から「自分がどうしたい」のかという切り替えが大切。》それが人間力）が増えてきて、他者を理解することにもつながるし、どんな自分も受け入れることが出来るようになるのです。結果として、心がリラックスし、どんなことも 楽しんで・エンジョイして 取り組める大人に育っていくことが出来るのです。

そして次に、自分が楽しければ、人間はそれを 伝えたくなる・エンターテイメント のです。楽しんで、伝えて、伝わったら、嬉しくて、また伝えて、楽しんで、それが仲間づくりに発展するのです。自分の感情、どうしたいかに気づいて、見返りを求めずにいれば、最後まであきらめないで、伝わるまで、伝え続けることもできるようになるのです。それが 人生をエクセレント にするのです。



★エクスチェンジ★

自分の根本は変えられない部分もあります。どんなに努力をしても、結局、元のままだった、変れないと感じることもあるのです。そう感じるのも間違っていないのです。違う自分になることは苦しいのですね。

だからこそ、少しだけ行動を変えればいいのです。少しだけ行動を変えることが、人からは違って見える、人から成長したと見えるのです。だから、小さな行動ステップでいいのです。自分を客観的にみて、少しだけ行動を変えてみましょう。勇気をもって。そして、行動を変えることで、自分の中の奥底に、いつの間にか変化が起きているのです。それが成長です。

このことの理解なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。このような親、教師、子どもの関係築けたときその集団はきっと成長していくのでしょうか。そして、さらに素敵な教育集団、よりよき、教師、保護者、大人になるために、去年、出あったこの言葉を大切にしていきたいと思います。

これから起こる出来事には必ず肯定的な意味があると私は考えます。自分にとって必要だからその事が起るのです。過去に生きるから、失敗と後悔があり、未来に急ぎすぎるから、不安と焦りがあるのだと思います。今にいれば結果があるのみです。「今ここ」に生きていれば、失敗はありません。そして、結果を得た後は「今からどうするか」が大切なのだと感じています。

新しい一年が始まりです。どんな日々を過ごすかは、全て自分しだいです。

子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くします。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守ります。子ども達、保護者の方、そして私たち職員にとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわせて頑張ります。今年一年間の保護者の皆様のゆりの樹幼稚園に対する、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。



【失敗】を人生の宝にする10のヒント

どんな失敗や挫折・ピンチものりこえることができます。それは「失敗」の意味づけを自分から始めます。

- (1) 挫折はスタートライン 「さあ、ここからが勝負！」
- (2) 失敗は誇り 「失敗は勇気の証、誇りを持とう」
- (3) 苦い経験は最良の教師「上手く行かない方法が1つわかった！」
- (4) 大きな壁は問いかけ「キミは、本気で取り組むつもりなの？」
- (5) 試行錯誤は、道しるべ「諦めるのではなく、もう一步の努力・工夫が必要だ」
- (6) ピンチはチャンス
「失敗を乗り越えたら、スキルアップができる。ここから伝説が生まれる」
- (7) クレームはハッピー・コール
「それ以外の多くの人が喜んでくれている。成長のための学びを運んでくれる」
- (8) 報われないこともエール「時間はかかるかもしれない、あきらめないでいよう！」
- (9) 悩みは出会いの始まり「解決策を教えてくれる師・友・本との出会いが待っている」
- (10) 逆境は光「この痛みや経験が今後生きてくる。そして、次に続く人の勇気になる」
あなたが学ぶ姿勢、挑戦する態度を忘れなければ、
どんなことも最後は自分を幸せな成功指定席に導いてくれるのです。

誰しも苦しみや不安を抱えたことがあるでしょう。もしかしたら、今、現在、心配事や悲しみで、心がざわついているかもしれません。辛い思いをしているかもしれません。そして、それはごくあたりまえのことです。

そこまで大変ではなくても、生活を向上させ、今より少しでも充実した、幸せな人生にしたいと問題意識を持っているのですから、完全に満足なんて人はそうそう多くはいないことでしょう。ある人が、語ったそうです。

「人生はすべてうまくいっている。 今まで経験したことも、これから体験することも……。だから過去を悔やむことなく、未来を心配することなく、あらゆる体験を思いっきり味わい、楽しむこと。その為に必要なことは全て用意されていて、見守ってくれている」

それを聞いていた一人が質問しました。「では、なぜ私達の人生は今、こんなにも辛いのでしょうか？」と。その人達の顔を見回し、慈愛にあふれた表情で「それは、より深く人生を味わい、喜びや楽しみを一層深く感じる為に、一見辛く思えることが起こっている。今、人生が辛いとしても、それは長い目で見るととても素晴らしいことにもなる。 なぜなら、今、この辛さを味わっているからこそ、これから訪れる人生の楽しさや喜びを 一層、深く味わうことができるのだから・・・」

この体験があるからこそ成長し、この体験があるからこそ人の痛みも理解できるようになる。更にこの体験があるからこそ、一層、幸せの尊さを感じることができる。

ハイキングで山に登っているときはちょっと苦しい。そして、景色の移り変わりや草花に目を向けたり、鳥のさえずりに耳を傾けたり、一緒に歩む人と会話を楽しんだり、汗をかいた身体に水が一層おいしく感じたり、その場を楽しんでいれば 頂上まで楽しんでいけるだろう。そして頂上にたどりついたときの達成感や充実感、喜びや幸せは山がけわしければけわしいほど、一層深いものになるでしょう」と答えたそうです。

このように私達が抱えている不安や苦しみ、悩みが大きければ大きいほど、それを解決したときの幸せや喜びは深く、学びも大きいものとなります。人生は楽しいことと辛いことがあるのではありません。『楽しいことと学ぶことがある』のです。そしてその学びはやがて自分を幸せへと導いてくれるのです。辛いことは、より深く人生を味わい、喜びを一層感じるために起こっています。もし、不安や苦しさを感じたら、「この体験があるからこそ、幸せを一層深く感じられるのだ」と

捉えましょうさあ、喜びと感動いっぱいの子育ての始まりです。
我が子のいい所に焦点を当てて、子育て、親育ち楽しみましょう！